

平成21年度第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (春季定例会)の開催結果について(概要)

1. ダムの貯水状況・積雪状況と今後の見通し

首都圏の水ガメである利根川上流8ダムと鬼怒川上流3ダムの4月14日時点の貯水量は、表のとおりであり、利根川上流8ダムでは平年を上回り、鬼怒川上流3ダムでは平年を下回る状況です。

	貯水量(貯水率)	平年比	備考
利根川上流8ダム (4月14日0時)	3億8,687万 ³ m ³ (84%)	124%	平年を上回る (H4~H20平均)
鬼怒川上流3ダム (4月14日0時)	1億5,316万 ³ m ³ (85%)	96%	平年を下回る (S60~H20平均)

今冬の利根川上流域の積雪状況は表のとおりで、平年を下回る状況です。

	積雪深 (平年比)	累加降雪量	備考
奈良俣ダム地点 (4月14日9時)	9cm (15%)	949cm	平年を下回る (H3~H20の4月第3半旬末平均)
尾瀬沼地点 (4月14日9時)	159cm (77%)	1,096cm	平年を下回る (S29~H20の4月第3半旬末平均値)

平成21年1月から3月までの降水量は表のとおりで、平年を上回る状況です、

	累加降水量	平年比	備考
利根川栗橋上流域 (1月から3月)	189mm	約120%	平年を上回る (S23~H20平均)
鬼怒川佐貫上流域 (1月から3月)	206mm	約120%	平年を上回る (S47~H20平均)

利根川上流5ダムは、毎年4月から5月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では5月の中旬にほぼ満水となりますが、今年は1月下旬からの高温の影響により積雪も少ないことから、貯水量の回復に努めています。ダムの水源地となる山岳部では、現時点において平年を下回る積雪となっており、例年に比べ、融雪による流況改善が望めないことも考えられます。

また、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。

2. 今後の対策

①今後、本年の利根川上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や積雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

②利根川渇水対策連絡協議会としては、現在のダム等の水供給能力が、首都圏の水需要の大きさに対して十分とはいえない状況にかんがみ、さらに幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的な対応を行っていきます。

※ ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。どうぞご利用下さい。

- ・利根川上流8ダム 電話番号 027-255-5692
- 五十里ダム 電話番号 0288-78-0440
- ・鬼怒川上流3ダム 川治ダム 電話番号 0288-78-0908
- 川俣ダム 電話番号 0288-96-0288
- ・二瀬ダム 電話番号 0494-55-0116

※ ホームページでもダムの情報をお届けしています。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/> (首都圏の水資源情報 他)

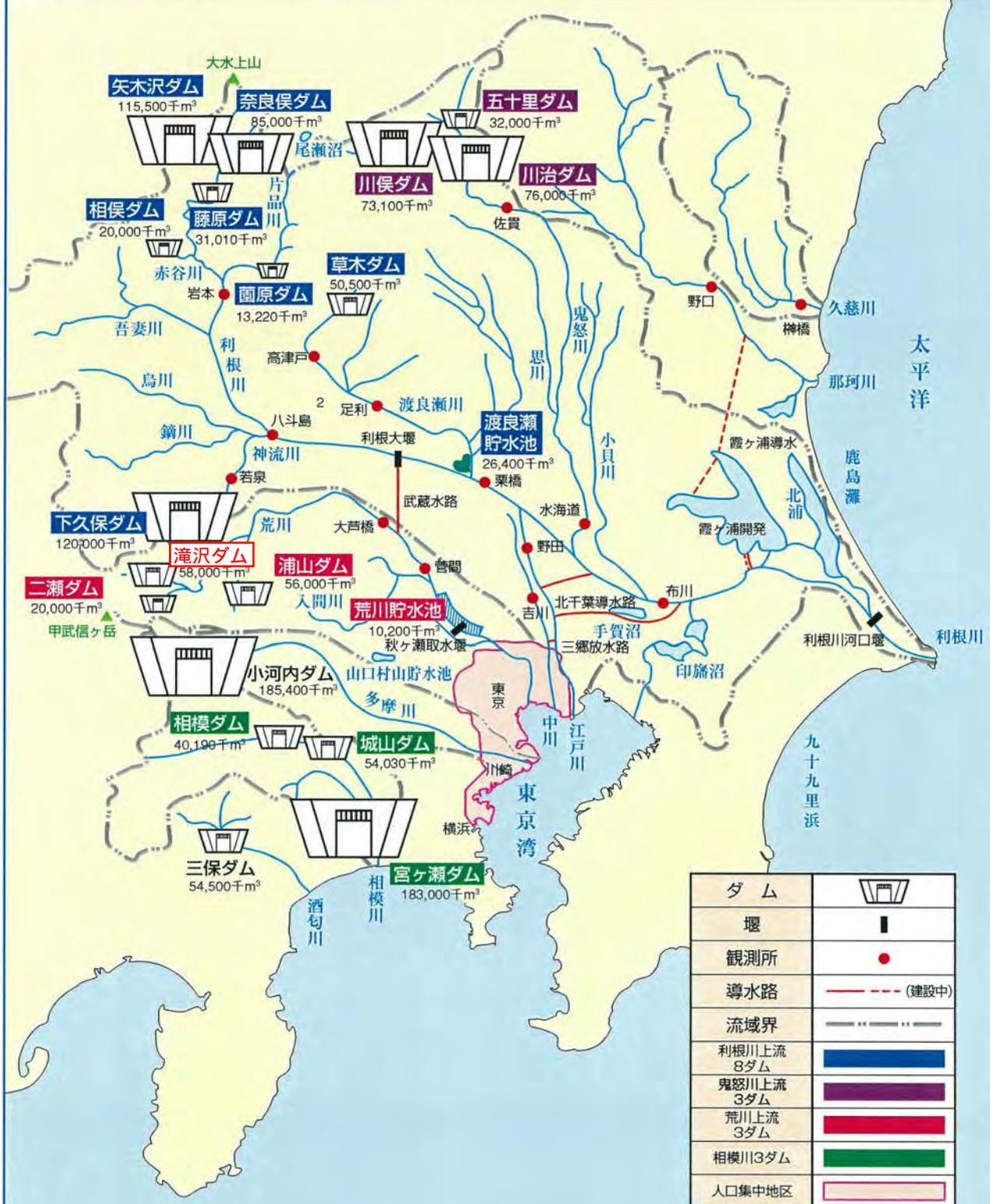
利根川水系渇水対策連絡協議会委員

会 長	国土交通省関東地方整備局長
委 員	国土交通省関東地方整備局副局長
"	国土交通省関東地方整備局河川部長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部長
"	農林水産省関東農政局農村計画部長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部長
"	" 建設局河川部長
"	" 水道局総務部長
"	千葉県総合企画部長
"	" 県土整備部長
"	埼玉県企画財政部長
"	" 県土整備部長
"	茨城県企画部長
"	" 土木部長
"	群馬県企画部長
"	" 県土整備部長
"	栃木県県土整備部長
"	独立行政法人水資源機構理事（管理担当）
"	" 管理事業部長

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事

幹事長	国土交通省関東地方整備局河川部広域水管理官
幹 事	国土交通省関東地方整備局河川部河川情報管理官
"	国土交通省関東地方整備局河川部水政課長
"	" " 河川計画課長
"	" " 河川環境課長
"	" " 河川管理課長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部地域経済課産業立地室長
"	農林水産省関東農政局農村計画部農村振興課長
"	国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長
"	" 利根川下流河川事務所長
"	" 江戸川河川事務所長
"	" 霞ヶ浦河川事務所長
"	" 渡良瀬川河川事務所長
"	" 下館河川事務所長
"	" 高崎河川国道事務所長
"	" 利根川ダム統合管理事務所長
"	" 鬼怒川ダム統合管理事務所長
"	" 荒川上流河川事務所長
"	" 京浜河川事務所長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部副参事（水資源・建設副産物担当）
"	" 建設局河川部計画課長
"	" 水道局総務部施設計画課長
"	千葉県総合企画部水政課長
"	" 県土整備部河川環境課長
"	埼玉県企画財政部土地水政策課長
"	" 県土整備部水辺再生課長
"	茨城県企画部水・土地計画課長
"	" 土木部河川課長
"	群馬県企画部土地・水対策室長
"	" 県土整備部河川課長
"	栃木県県土整備部砂防水資源課長
"	独立行政法人水資源機構管理事業部管理企画課長
"	" 利根導水総合事業所長

関東地方の主要な河川と水資源開発施設



ダム	
堰	
観測所	
導水路	(建設中)
流域界	
利根川上流 8ダム	
鬼怒川上流 3ダム	
荒川上流 3ダム	
相模川3ダム	
人口集中地区	

注：ダム名下の添え書きは貯水容量

利根川上流ダム群等の現況と今後の対策について



矢木沢ダム(平成21年4月6日撮影)

平成21年4月16日

関東地方整備局

1. 利根川上流ダム群等の現況

1) 利根川水系

(1) 降水量

平成20年の利根川栗橋上流域の降水量は、1月から3月までは、平年よりやや少ない状況でしたが、4月から6月にかけて平年を大きく上回る降水量となりました。7月以降については、8月が月間降水量の統計期間（S23～H20）で1番目の降水量となりましたが、それ以外は平年並以下となりました。年間平均では1,623mmと統計期間で8番目に多い降水量となりました。

平成21年に入ると、1月は下旬の降雨により月間降水量が86mm（平年43mm）となり統計期間で2番目に多い降水量となりましたが、2月は平年を下回り、3月は平年並となっています。1月から3月の累加降水量は189mm（平年1月～3月までの累加156mm）と平年の約120%となっています。

4月の月降水量は、13日までで13mmとなっています。（図-1、表-1参照）

図-1

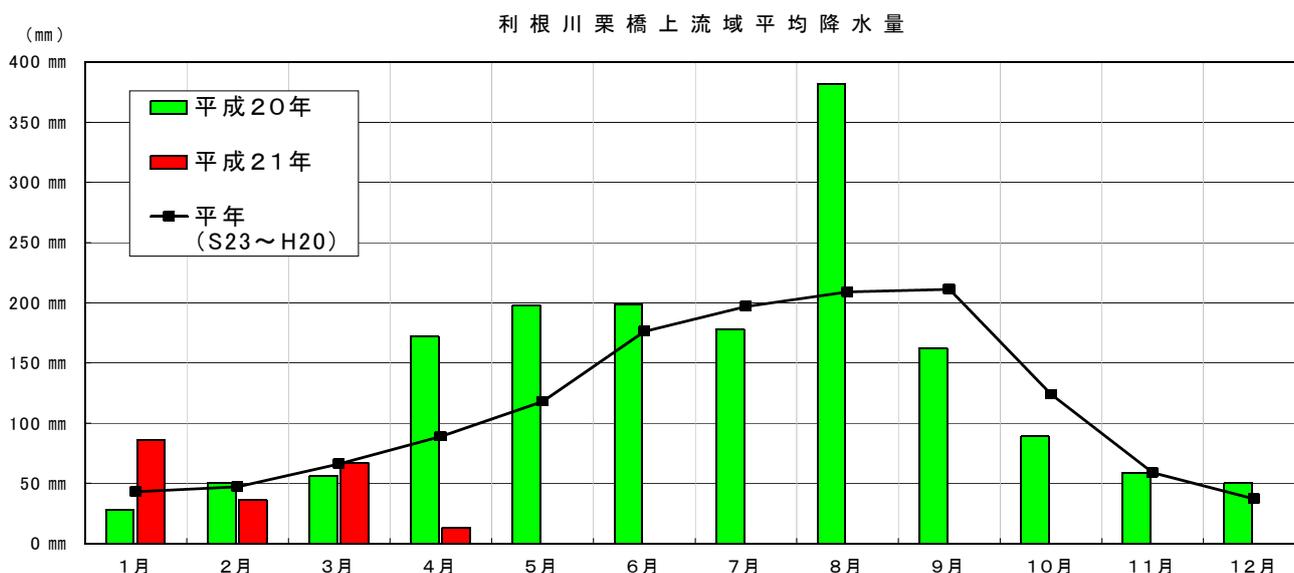


表-1 利根川栗橋上流域平均降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	"
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	"
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成20年	28	50	56	172	198	199	178	382	162	89	59	50	1,623	
平年 (S23-H20)	43	47	66	89	118	176	197	209	211	124	59	37	1,376	
平成21年	86	36	67	13									202	
平年比 (%)	200	77	102	15										

平成21年4月13日まで

※: 利根川取水制限実施月（一時緩和含む）
 ※: 栗橋上流域面積 8,588km²

(2) 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪状況

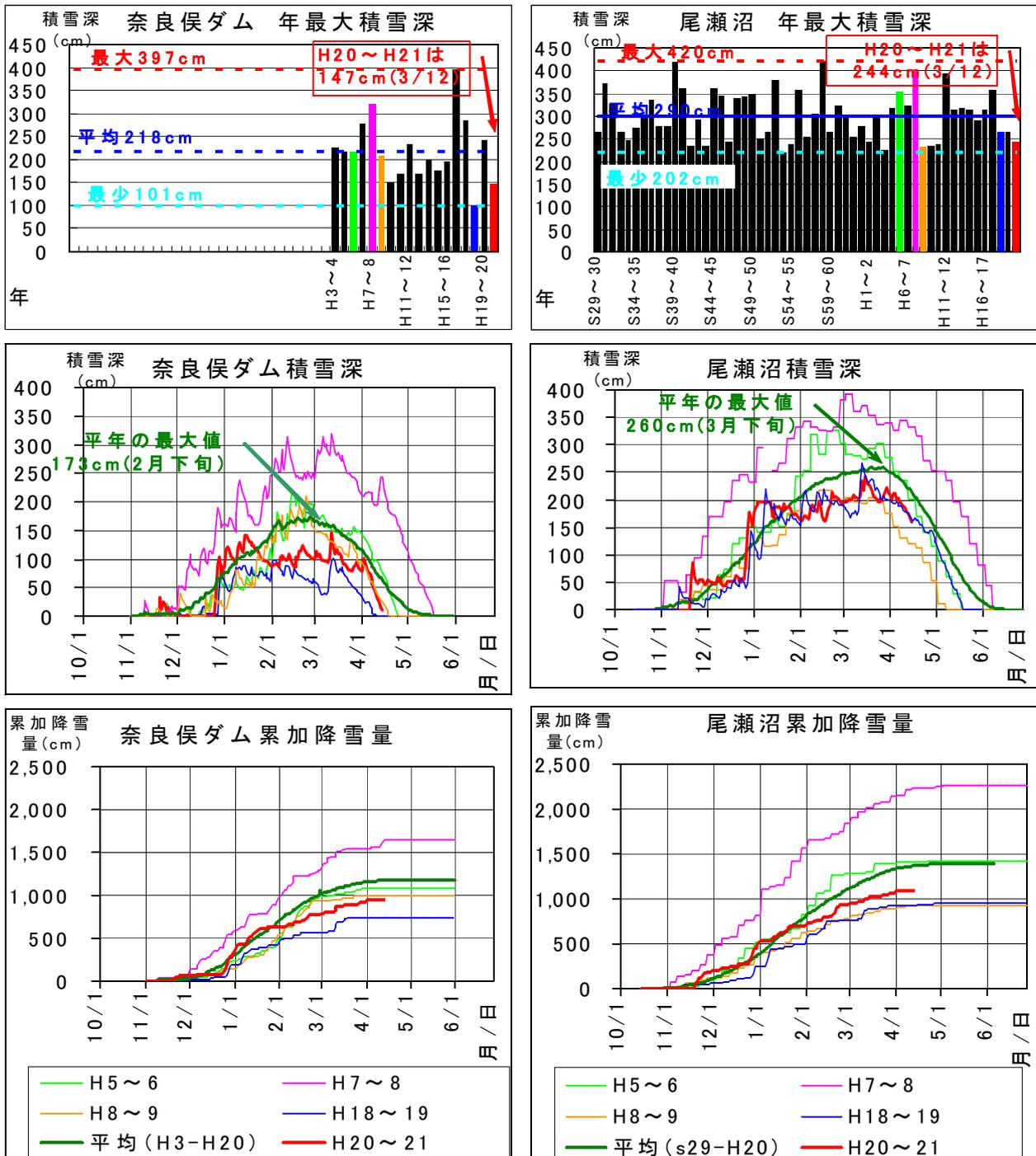
利根川上流域の降雪状況は、1月の中旬までは平年を上回っていたものの、それ以降においては奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点において平年を下回っています。今期の最大積雪深は奈良俣ダム地点で147cm、尾瀬沼地点で244cmと平年より少ない状況となっております。

平成21年4月14日9時現在の奈良俣ダム地点の積雪深は9cm（平年の15%）、尾瀬沼地点では159cm（平年の77%）となっております。（表-2、図-2参照）

表-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図

観測所名	時 点	日降雪量	積雪深	今期最大積雪	累加降雪量
奈良俣 ダム地点	平成21年4月14日9時現在	0cm	9cm	147cm(3/12)	949cm
	H3~H20の4月第3半旬末平均値		59cm		1,187cm
尾瀬沼 地点	平成21年4月14日9時現在	0cm	159cm	244cm(3/15)	1,096cm
	S29~H20の4月第3半旬末平均値		206cm		1,375cm

図-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図



平成21年4月14日9時現在 ※過去のデータは半旬末の値

(3) 各観測所の積雪深の状況

奥利根の積雪深は、標高の低い観測所では、消雪となっています。標高の高い観測所では、積雪の少なかった平成19年の数値を上回る観測所が多いものの、平年と比較すると15～170%の積雪となっており、平年を下回る観測所が多くなっています。

(図-3、図-4 参照)

図-3 積雪観測所位置図

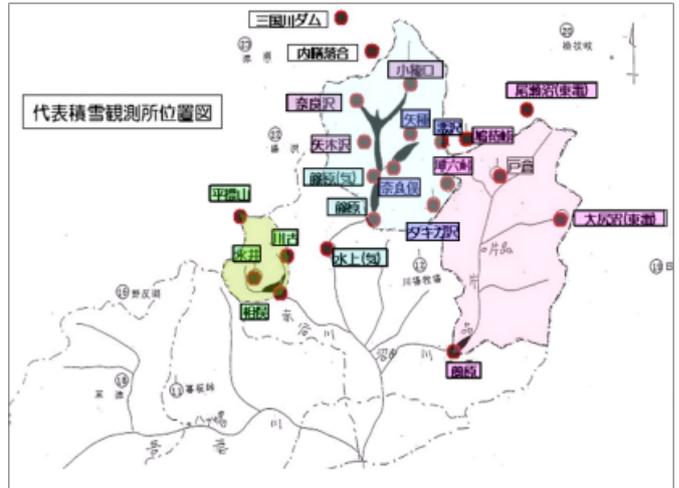
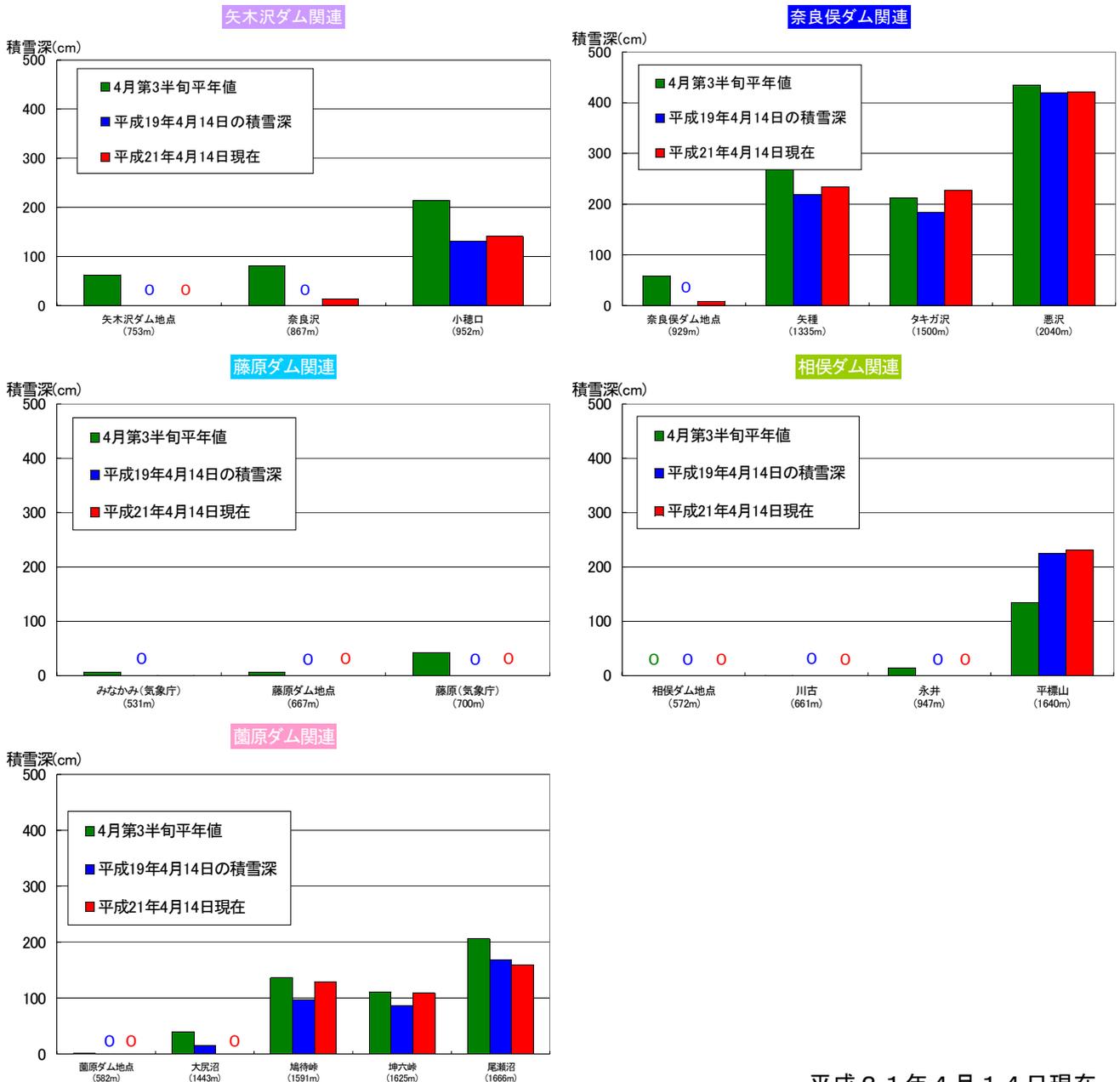


図-4 各観測所の積雪深状況



平成21年4月14日現在

(4) 利根川上流ダム群の貯水状況

平成20年の利根川上流8ダムは、1月から3月までは平年と同様に補給傾向で、貯水量は平年より少ない状況で推移しましたが、4月から6月までの平年を上回る降雨量により、9年ぶりに8ダムで満水となりました。それ以降も8月の平年を上回る降水量により、平年を上回る貯水量で維持していました。秋季の降雨は平年より少なかったものの、ダム貯留に努め、冬季の補給は12月24日から開始となりました。

平成21年に入って、1月は補給が続きましたが、月末の発達した低気圧によって相当の降水量があったことから貯留を行い、貯水量の回復に努めました。また2月以降は気温の高い日があり一部融雪が始まったことや積雪も少ないことから、下流の河川流量を確保しつつ貯水量の回復に努めています。

平成21年4月14日0時現在の貯水量は、3億8,687万 m^3 （常時満水容量4億6,163万 m^3 に対して84%、平年の貯水量3億1,166万 m^3 に対して124%）と、平年を上回っています。

（表-3、図-5参照）

表-3 利根川上流8ダム貯水量

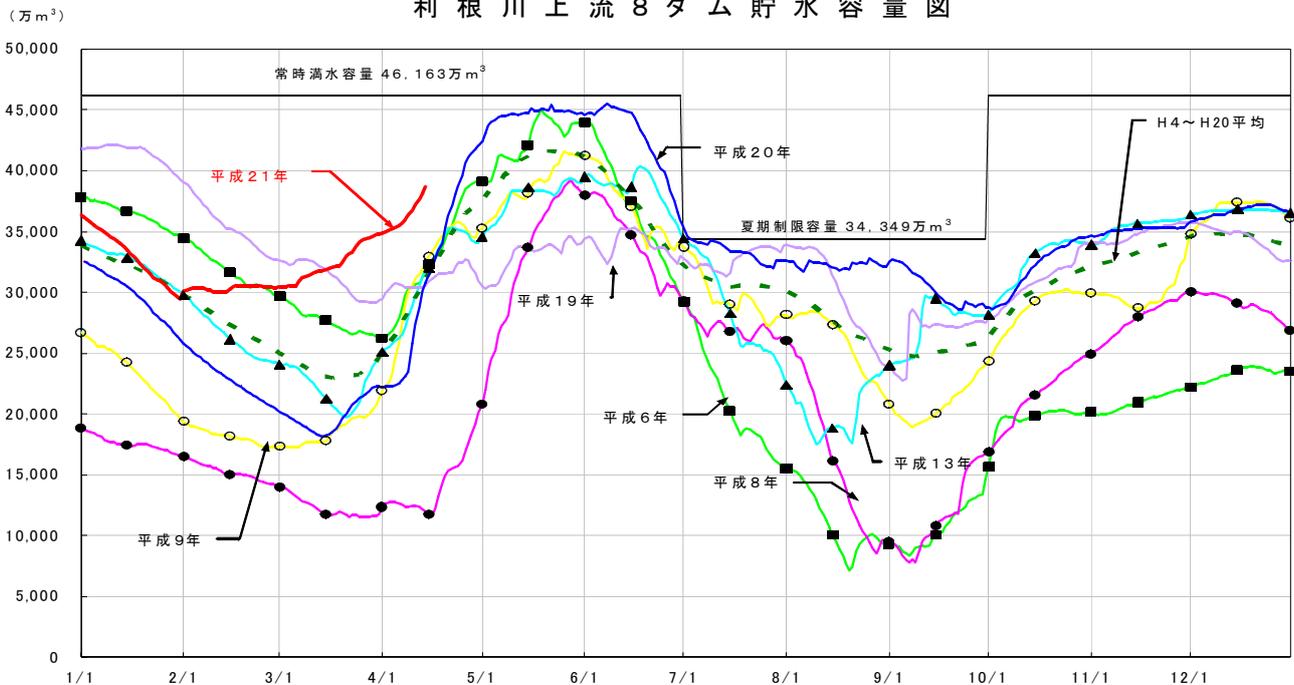
平成21年4月14日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)
矢木沢ダム	11,550	11,158	97	-393	189
奈良俣ダム	8,500	8,535	100	-84	141
藤原ダム	3,101	2,785	90	-32	141
相俣ダム	2,000	1,939	97	-39	127
藪原ダム	1,322	1,292	98	-22	142
下久保ダム	12,000	7,095	59	15	81
草木ダム	5,050	4,917	97	-3	112
渡良瀬貯水池	2,640	966	37	-38	58
8ダム合計	46,163	38,687	84	-596	124

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図-5

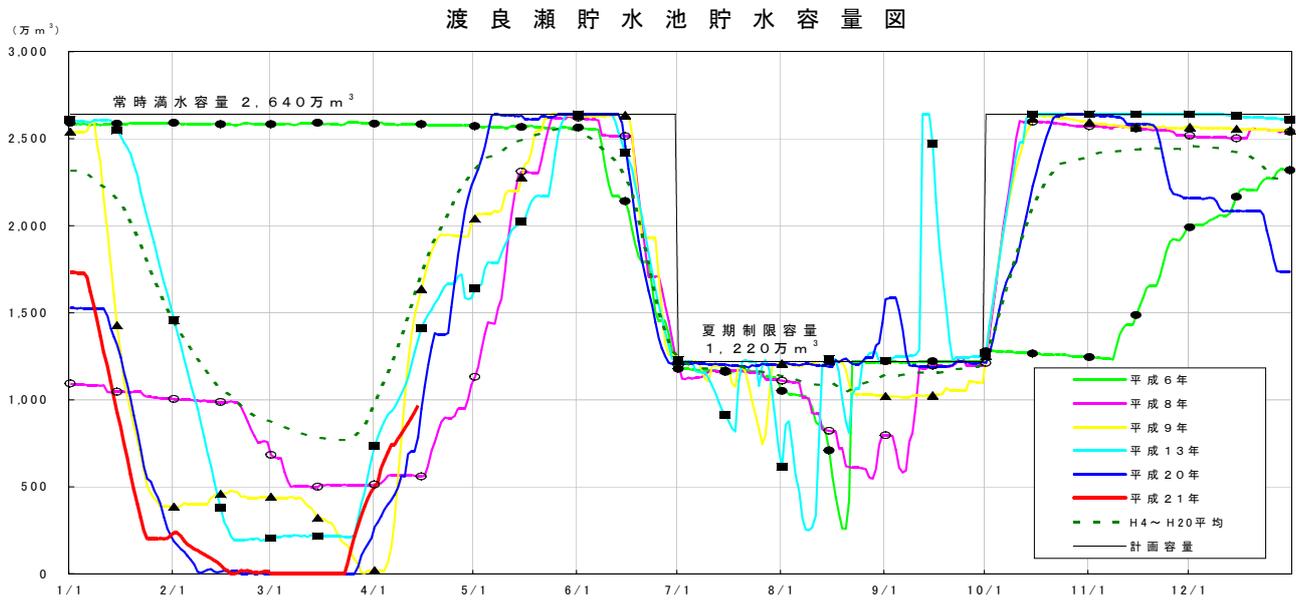
利根川上流8ダム貯水容量図



(5) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善等のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。平成21年4月14日0時現在の貯水量は、966万 m^3 、常時満水容量2,640万 m^3 に対して37%、平年の貯水量1,670万 m^3 に対して58%と平年を下回っています。(図-6参照)

図-6



2) 鬼怒川水系

(1) 降水量

平成20年の鬼怒川佐貫上流域平均降水量は、1月から3月は平年を下回る降水量でしたが、4月から8月までは平年と比べて月毎の変動が大きく、9月から11月までは平年を下回る降雨で推移し、12月は平年を上回り、年間降水量は1,622mmでほぼ平年並となりました。

平成21年に入ると、1月は月間降水量が92mm(平年48mm)で統計期間(S47~H20)で4番目に多い降水量となり、2月は平年を下回り、3月は平年並となっています。1月から3月の累加降水量は206mm(平年1月~3月までの累加173mm)と平年の約120%となっています。

4月の月降水量は、13日までに20mmとなっています。(図-7、表-4参照)

図-7

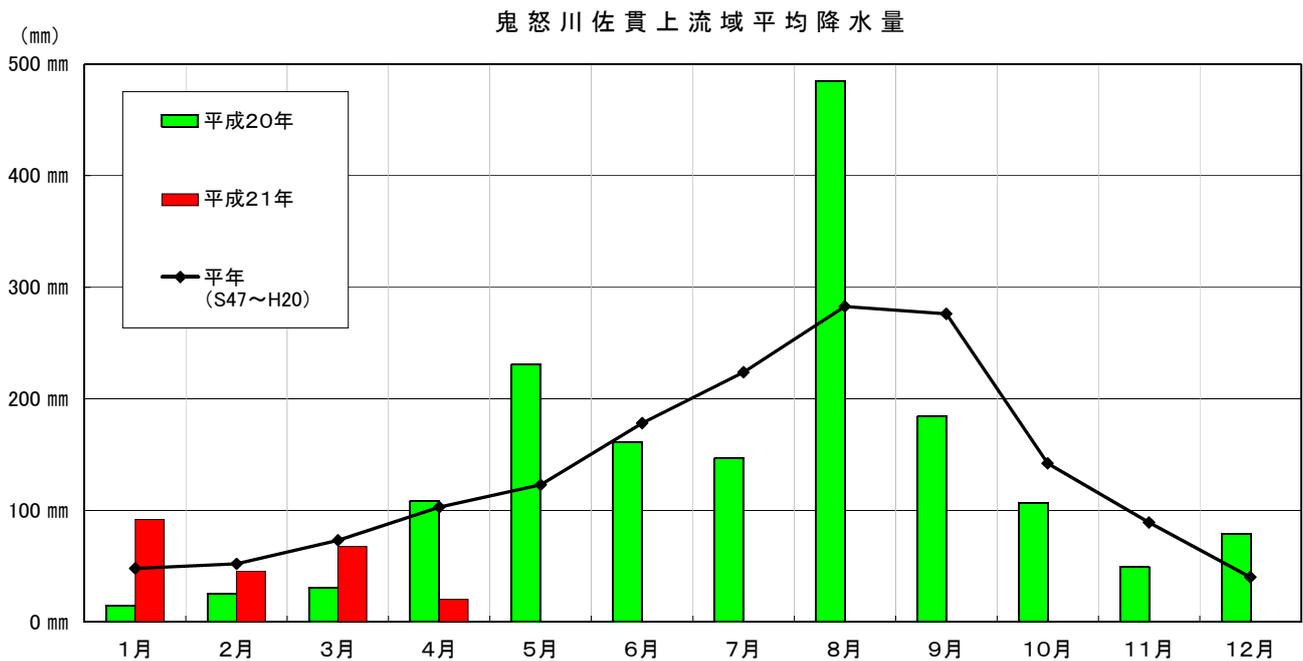


表-4 鬼怒川佐貫上流域平均降水量

	単位(mm)												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980
平成20年	15	25	31	108	231	161	147	485	184	107	49	79	1,622
平年(S47-H20)	48	52	73	103	123	178	224	283	276	142	89	40	1,631
平成21年	92	46	68	20									226
平年比(%)	192	88	92	19									

平成21年4月13日まで

※. 鬼怒川佐貫上流域面積 940km²

(2) 鬼怒川上流ダム群の貯水状況

平成20年の鬼怒川上流3ダムの貯水量は、1月から4月中旬までは、ほぼ平年並みの貯水量で推移し、その後の降雨や鬼怒川上流ダム群連携事業により、川治ダムへの貯水を行い、3ダムで4月26日に貯水量が最大1億6,699万 m^3 となりました。5月は、降水量が平年を大きく上回ったことから、貯水量が大幅に回復しましたが、それ以降は、ほぼ平年並の貯水量を推移しました。

平成21年に入ってから、平年よりやや少ない貯水量で推移していたものの、1月下旬の降水量の影響により貯水量が回復し、その後はほぼ平年並の貯水量で推移しています。

平成21年4月14日0時現在の貯水量は、1億5,316万 m^3 （常時満水容量1億8,034万 m^3 に対して85%、平年の貯水量1億5,913万 m^3 に対して96%）と、平年を下回っています。（表-5、図-8参照）

表-5 鬼怒川上流3ダム貯水量

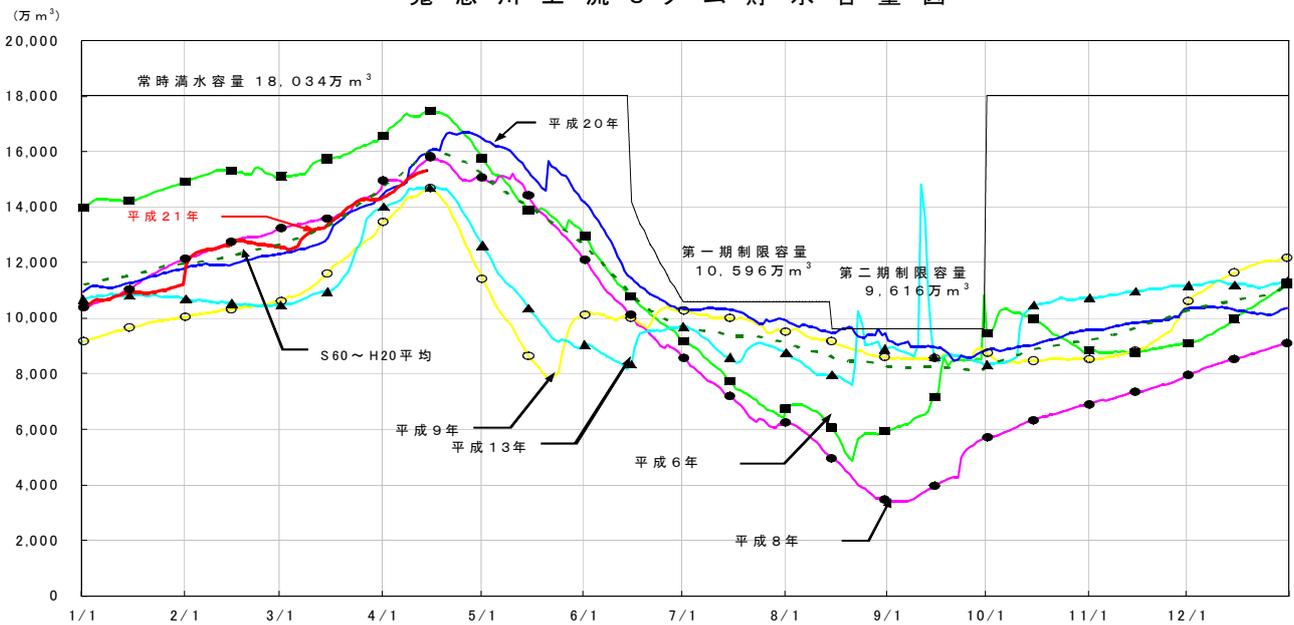
平成21年4月14日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)	適用
五十里ダム	3,123	2,982	95	-12	105	
川俣ダム	7,311	7,172	98	-14	100	
川治ダム	7,600	5,162	68	-4	88	
3ダム合計	18,034	15,316	85	-30	96	

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図-8

鬼怒川上流3ダム貯水容量図



3) 荒川水系

(1) 降水量

平成20年の荒川秋ヶ瀬上流域の年間降水量は1,546mmとなり、昭和40年以降44年間で11番目に多い記録となっています。

平成21年に入ると、1月の月降水量は98mmと平年を大きく上回り、昭和40年以降44年間で4番目に多い記録となりました。2月は平年を下回り、3月は平年並で、それぞれ24mm、59mmとなりました。1月から3月の累加降水量は184mm（平年1月～3月までの累加140mm）と平年の約130%となっています。

4月の月降水量は、13日までで6mmとなっています。（図-9、表-6参照）

図-9

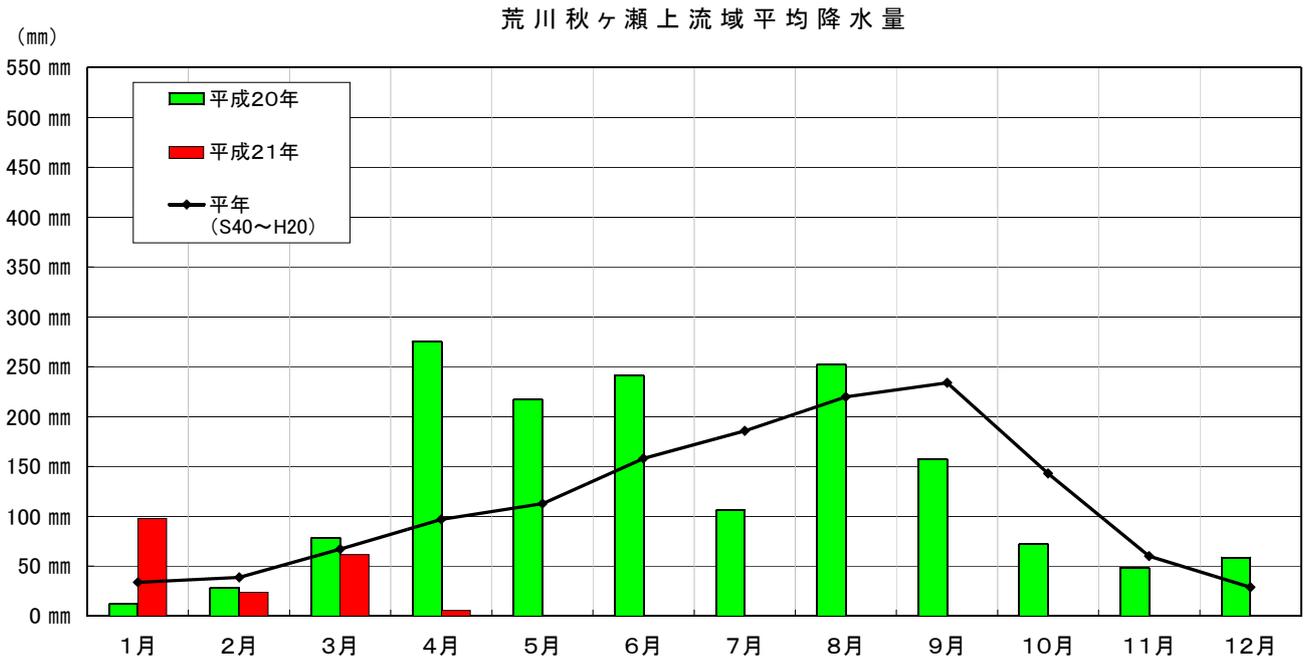


表-6 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657
平成20年	12	28	79	275	217	241	106	252	157	72	48	59	1,546
平年 (S40-H20)	34	39	67	97	113	158	186	220	234	143	60	29	1,380
平成21年	98	24	62	6									190
平年比 (%)	288	62	93	6									

平成21年4月13日まで

※. 荒川秋ヶ瀬上流域面積 2,021km²

(2) 荒川3ダムの貯水状況

平成20年の荒川3ダムは、4月と5月に平年以上の降雨があり、5月11日で貯水量7,884万m³と過去最高の貯水量となりました。しかし、9月以降は台風が上陸しない等の影響から少雨傾向となり、貯水量の回復が鈍い状況となっていました。このため、荒川浄化施設を運用して取水の安定化を図っていました。

平成21年に入ってから、平年を下回る貯水量で推移していましたが、1月の降水量が平年を大きく上回ったことから徐々に貯水量が回復し、3月上旬には平年を上回りました。平成21年4月14日9時現在の貯水量は、6,627万m³（常時満水容量8,620万m³に対して77%、平年の貯水量6,516万m³に対して102%）と平年を上回っています。

（表-7、図-10参照）

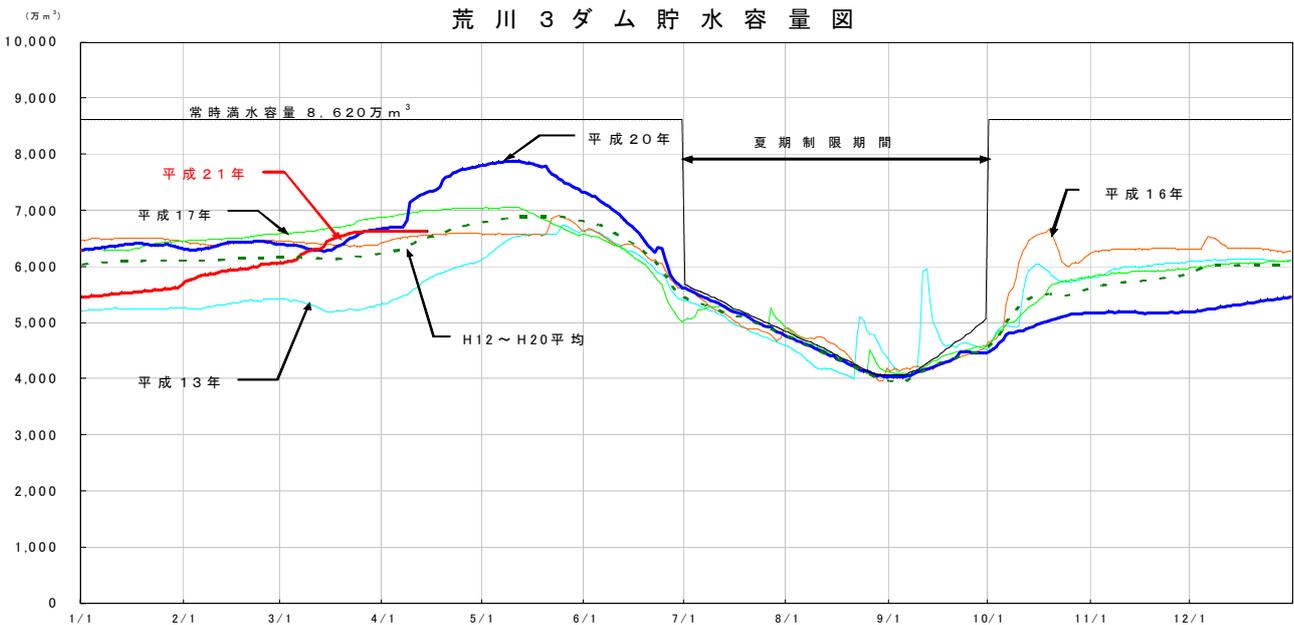
表-7 荒川3ダム貯水量

平成21年4月14日9時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	1,728	86	0	124
荒川貯水池	1,020	1,018	100	0	105
浦山ダム	5,600	3,881	69	0	93
3ダム合計	8,620	6,627	77	0	102

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図-10



4) 多摩川水系

(1) 降水量

平成20年の小河内ダム上流域の降水量は、年間の降水量は1,550mmとなっています。

平成21年に入ると、1月の月降水量は99mmと平年を大きく上回りました。2月は平年並となり、3月は平年を下回り、それぞれ59mm、72mmとなりました。1月から3月の累加降水量は230mm(平年1月～3月までの累加190mm)と平年の約120%となっています。

4月の月降水量は、13日までに8mmとなっています。(図-11、表-8参照)

図-11

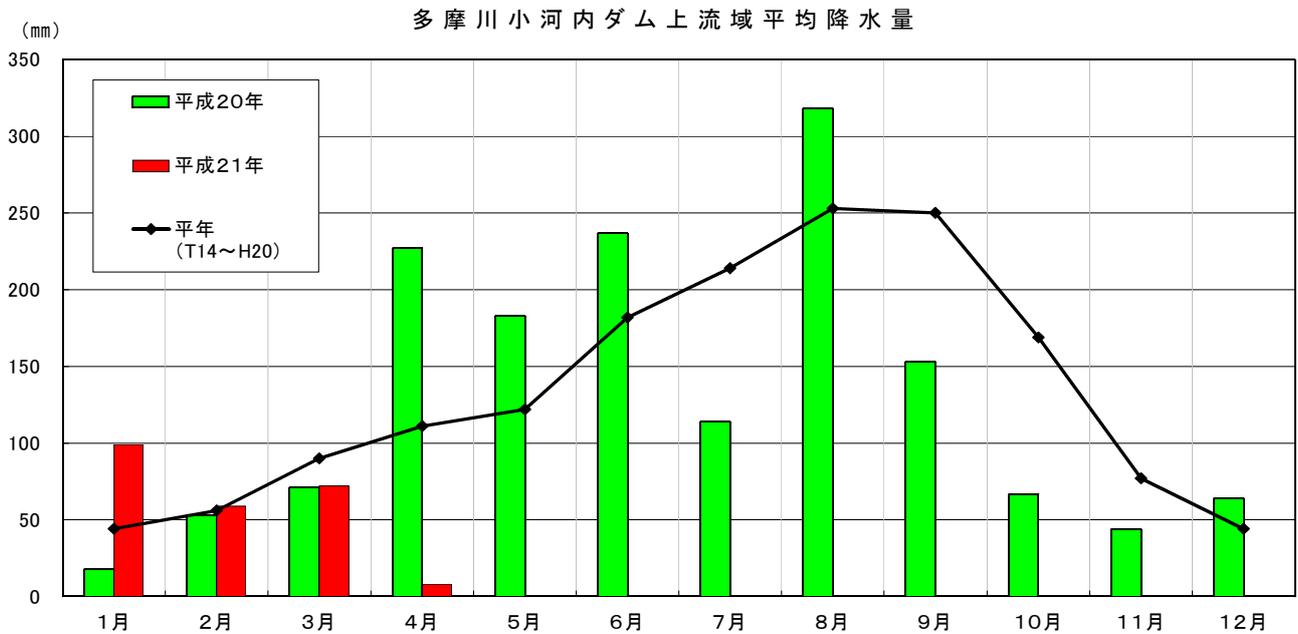


表-8 多摩川小河内ダム上流域降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成20年	18	53	71	227	183	237	114	318	153	67	44	64	1,550
平年 (T14-H20)	44	56	90	111	122	182	214	253	250	169	77	44	1,612
平成21年	99	59	72	8									238
平年比 (%)	225	105	80	7									

平成21年4月13日まで

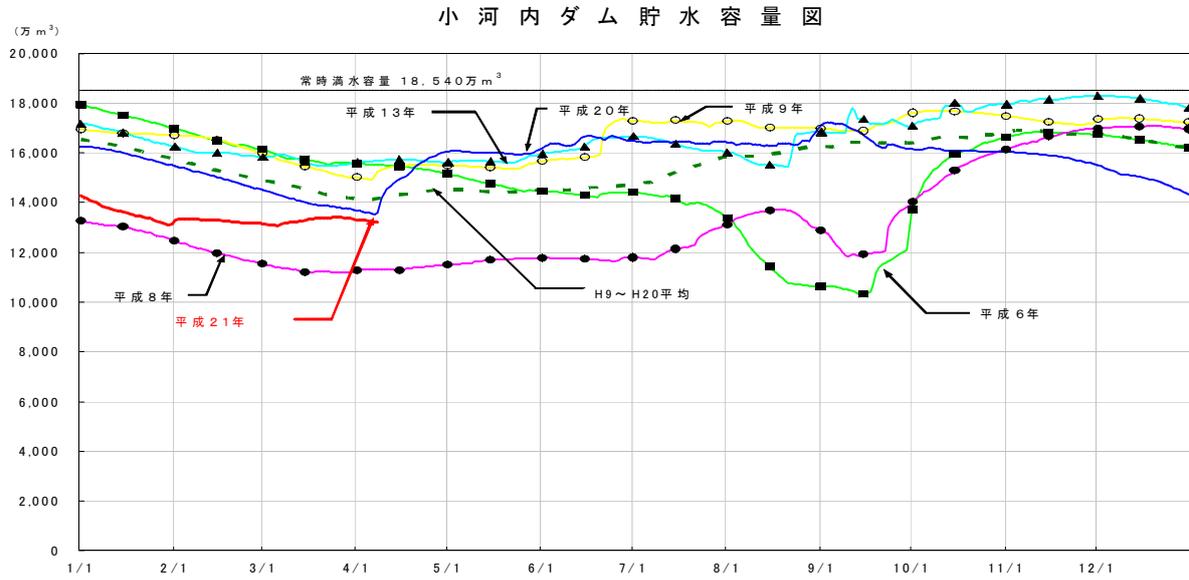
※. 端数処理の関係で、各月の和と合計値は一致しないことがあります。

※. 小河内上流域面積 262km²

(2) 小内ダム貯水状況

4月14日7時現在の貯水量は、1億3,112万 m^3 、貯水率71%、平年比96%と平年をやや下回っています。(図-12参照)

図-12



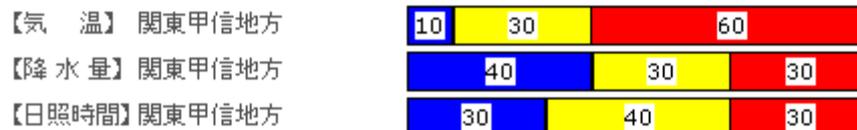
2. 今後の見通し及び対策

(1) 見通し

- ①. 平成21年4月10日発表の気象庁の1か月予報によると、4月11日から5月10日の関東甲信地方の降水量については、「少ない」となっており、3月25日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、5月は「平年並」、6月は「平年並」となっています。

1か月予報（平成21年4月10日発表）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

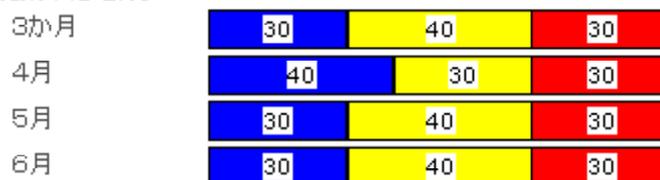


凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3か月予報（平成21年3月25日発表）

【降水量】

[関東甲信地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②. 利根川上流5ダムは、毎年4月から5月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では5月の中旬にほぼ満水となりますが、今年は1月下旬からの高温の影響により積雪も少ないことから、貯水量の回復に努めています。ダムの水源地となる山岳部では、現時点において平年を下回る積雪となっており、例年に比べ、融雪による流況改善が望めないことも考えられます。

また、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。

- ③. 鬼怒川上流3ダムの貯水量は平年を下回る貯水量となっており、4月15日から下流の農業用水の需要を確保するための補給を実施していきます。今後も水需要に対して必要な水量を確保するためダムからの補給を行っていきいますが、今後の降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

(2) 対策

- ① [利根川水系における上流ダム群の貯水量の確保]

今後、本年の利根川上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

また、上流ダム群の貯水量の状況や積雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

- ② [利根川水系渇水対策連絡協議会の取り組み]

利根川渇水対策連絡協議会としては、現在のダム等の水供給能力が、首都圏の水需要の大きさに対して十分とはいえない状況にかんがみ、さらに幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位等について

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間											
				平成21年						平成22年					
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利根川上流ダム群	藤原ダム	H21貯水池法面対策工事	法面の崩落による影響を防ぐため法面対策工事を実施する。	9月下旬 → 1/29											
		制限貯水位 EL634.0m 制限期間 平成21年10月1日から平成22年1月29日	EL651.0m 31,010千m ³	EL639.0m 14,690千m ³	EL651.0m 31,010千m ³										
	相俣ダム	H21貯水池法面保護工事	法面の崩落による影響を防ぐため法面対策工事を実施する。	10/1 → 2/28											
		制限貯水位 EL543.0m 制限期間 平成21年10月1日から平成22年2月28日	EL565.0m 20,000千m ³	EL553.0m 10,223千m ³	EL565.0m 20,000千m ³										
	菌原ダム	H21菌原湖水面利用施設工事	湖面利用促進や適切な湖面利用がなされるように整備を行う。	9月下旬 → 3/31											
制限貯水位 EL545.0m 制限期間 平成21年10月1日から平成22年3月31日		EL564.0m 13,220千m ³	弾力的運用水位 EL553.0m 4,779千m ³	EL564.0m 13,220千m ³											
矢木沢ダム	矢木沢ダム利水放流設備予備ゲート戸 当たり塗替塗装工事	経年劣化による発錆を補修するため、補修塗装を実施する。	7月下旬 → 11月上旬												
	制限貯水位 EL840.0m 制限期間 平成21年8月下旬から平成21年10月下旬 ※補給により水位低下があった場合に工事を実施（工事期間約3週間）	EL850.0m 115,500千m ³	EL840.0m 72,500千m ³	EL850.0m 115,500千m ³											
利根川上流	渡良瀬遊水池	干し上げ 渡良瀬貯水池除塵設備更新工事 貯水池機場主ポンプ分解整備工事 北水門設備他修繕工事 貯水池流入堤補修試験工事 貯水池流入堤補修工事 *干し上げ期間は、昨年同様の約40日間を予定している。 制限貯水位 Y.P.+8.5m（最低水位） 制限期間 干し上げ期間：2月中旬～3月下旬程度 上記工事で水位に影響する可能性がある。	水質環境改善のため、貯水池内の水位を低下させ干し上げを実施する。	4月30日を目標とする、流況により遅れる可能性あり 干し上げ											
		Y.P.+11.5m 12,200千m ³	Y.P.+15.0m 26,400千m ³	Y.P.+8.5m 0千m ³											
鬼怒川上流ダム群	川治ダム	堆砂除去工事 主放流ゲート塗装工事	貯水池内の堆砂掘削工事を実施する。 主放流設備の塗装工事を行う。	7/15 → 11/15 9/1 → 11/31											
		制限貯水位 EL594.0m 制限期間 平成21年10月1日から平成21年11月31日	EL616.0m 76,000千m ³	EL594.0m 40,000千m ³	EL616.0m 76,000千m ³										
二瀬ダム	二瀬ダム	砂れき搬出工事	貯水池内の堆砂を二瀬ダム直下へ運搬する。	9/22 → 11/30											
		制限貯水位 EL518.0m 制限期間 平成21年9月22日から平成21年11月30日	EL542.0m 20,000千m ³	EL518.0m 6,122千m ³	EL542.0m 20,000千m ³										
滝沢ダム	滝沢ダム	試験湛水 斜面対策工事	試験湛水に伴う水位維持及び低下を実施する。 斜面対策工事を実施する。	9/1 → 11/31											
		水位維持 EL520.0m(4/1～5月中旬) EL515.0m(5月中旬～6月下旬) 試験湛水完了予定日 平成21年7月末 工事制限水位 E.L.537.0m(H22以降も対策工完了まで継続予定)	EL565.0m 58,000千m ³	EL537.0m 25,000千m ³	EL565.0m 58,000千m ³										